

教育協カウィーク基礎教育セッション⑦ 非認知
「非認知能力を測る指標とは？」

1. 背景

非認知能力に対する注目度が高まる一方、一部では、「非認知的取り組み＝特活」というイメージが先行し、介入の効果・成果をどのように測るかが不明確で、非認知能力に関する事業の実施への不安感が事業実施者にある。このような状況を踏まえ、このセッションが今後の教育協力の可能性を広い視点で検討できるきっかけになることを目指す。

2. 目的

日本国内外における非認知的取り組みの実践事例への理解を深め、日本の教育経験・実践を途上国で展開する可能性について議論する。

3. 主な対象者

限定しないが、特に企業・大学・NGOの実務者


4. 使用言語

日本語


5. 開催方法

オンライン開催

6. 登壇者（写真付きプロフィール）

<p>文部科学省 初等中等教育局 視学官 安部 恭子（あべ きょうこ）</p>	
<p>埼玉県さいたま市の小学校に勤務後、さいたま市教育委員会、さいたま市立小学校教頭勤務を経て、2015年より文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官・国立教育研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、2022年より現職。</p>	

<p style="text-align: center;">早稲田大学文学学術院 教授 小塩 真司（おしお あつし）</p>	
<p>愛知県生まれ。名古屋大学大学院博士課程後期課程修了。博士（教育心理学）。中部大学講師，准教授を経て2012年より早稲田大学准教授。2014年より現職。専門は発達心理学，パーソナリティ心理学。著書に『性格とは何か』（中公論新社，2020年），『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』（北大路書房，2021），『Big Five パーソナリティ・ハンドブック』（福村出版，2023年）など多数。</p>	
<p style="text-align: center;">株式会社公文教育研究会 常務取締役（経営戦略管掌、教務・指導管掌、全社戦略推進本部長） 井上 勝之（いのうえ かつゆき）</p>	
<p>通産省（当時）、投資ファンドを経て、2007年に株式会社公文教育研究会入社。バングラデシュの国際NGO”BRAC”とパートナーシップを結んでの、貧困層の子弟を対象とした事業等、パートナーと協働しての教育協力を主導。現在は、常務取締役として、グループの経営企画及び経営管理、教材開発等を管掌。KUMONのデジタル化も推進している。京都大学工学部卒。スタンフォード大学経営大学院卒（MBA）。</p>	<p style="text-align: center;">宮城県松島町立松島第二小学校 教頭 片平 恵（かたひら めぐみ）</p> <p>宮城県塩竈市生まれ。宮城県内小学校教諭、外国語専科教員（利府町、松島町兼務教員）を経て、現在小学校教頭。宮城県総合教育センター、仙台教育事務所主催の小中学校教員対象、小学校外国語研修や県内小学校の校内研修等において、小学校外国語教育のあり方や指導方法について研修講師を務める。国際理解／開発教育分野においては、JICA 教師海外研修モンゴルに派遣、パラグアイ派遣でのファシリテーターを務め、小学校における国際理</p>

<p>解教育と各教科とのクロスカリキュラムを通して、児童の生きる力と共生の心を育む教育について研究を進めている。</p>	
<p>独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員 田中 紳一郎（たなか しんいちろう）</p>	
<p>株式会社パデコ、世界銀行を経て2013年より現職(JICA国際協力専門員)。近年は、エジプト／マレーシア(全人教育)、レバノン／ヨルダン(シリア難民対応)等のプロジェクトを支援。関心事項は子どもの包摂、「効率と公平」の追求、官民連携、紛争後の教育支援等。</p>	

7. 次第

時間	内容	発表者／司会
18:00～18:05	開会	田中紳一郎専門員
18:05～18:20	非認知能力の測り方(心理学の見地から)	小塩真司氏
18:20～18:35	初等教育段階で育成する非認知能力とその測り方	安部恭子氏
18:35～18:50	児童生徒の非認知能力の評価	片平恵氏
18:50～19:05	子どもの非認知能力の評価	井上勝之氏
19:05～19:35	質疑応答	
19:35～19:40	閉会	松崎瑞樹氏 (JICA 人間開発部 基礎教育グループ 基礎教育第二チーム課長)

8. 議論方法

パネルディスカッション

以上